新聞　（第３種郵便物認可）

長崎原爆投下 B29機長

法王に被爆地支援要請

遺族が証言

60年代謁見 孤児院寄付も

1945年8月9日に長崎に原爆を投下した米B29爆撃機「ボックスカー」の故チャールズ・スウィニー機長が、60年代初めにローマ法王ヨハネ23世（在位58～63年）に個人的に謁見（えっけん）、被爆地の復興支援を要請していたことが遺族の証言で7日分かった。長崎への原爆投下70年を前に、スウィニー氏の故郷の米ボストン近郊クインシーで次女や弟が共同通信の取材に応じた。

スウィニー氏は敬虔（けいけん）なカトリック信徒。45年9月に軍の任務で米科学者らと長崎を訪問した。その後、戦災孤児のことを気にかけ、長崎のカトリック系孤児院に寄付したと遺族に話していた。

原爆投下についてスウィニー氏は「戦争終結を早めた」として必要だったとの主張を貫いた。だが、宗教や倫理の問題に詳しい国際基督教大の森本あんり教授は、寄付などの行為から「孤児たちにすまなかったとの思いが心の奥にあるのが分かる」と語った。

次女マリリン・ハウさん（67）によると、スウィニー氏は62年ごろバチカンを訪れ、ヨハネ23世に夫婦で謁見、被爆で全壊後、再建された長崎の浦上天主堂への追加支援などを求めた。法王庁のプレス担当者は公式記録による確認は困難としている。

ヨハネ23世は62年10月のキューバ危機の際、米ソの仲介に尽力、翌年には、核兵器は禁止されねばならないとした公式見解「地上の平和」を出した。

ハウさんは、50年代後半～60年代前半に父と「浦上の孤児」のことをよく話し合ったとし、「再興を願い浦上教会に寄付していた」と明かした。弟のウィリアム氏（74）も「兄は長崎のカトリック施設にお金を毎年送ろうと言っていた。多くの人が犠牲になったからだ」と話した。

浦上教会や長崎のカトリック関係者らは、寄付は通常匿名で、記録も不完全なため、照合は困難としている。スウィニー氏は89年11～12月に訪れた広島でも近郊の孤児院を訪れ、小切手で寄付を手渡した。

（クインシー共同＝土屋豪志）

長崎に原爆を投下したB29爆撃機「ボックスカー」のチャールズ・スウィニー機長＝1945年8月、北マリアナ諸島（ゲッティ＝共同）

チャールズ・スウィニー氏　19年12月27日、米ボストン郊外のアイルランド系カトリック信徒の家庭に生まれる。高校卒業後、41年4月に陸軍航空隊入隊。試験飛行士などを経て、45年8月6日、機長を務めたB29「グレート・アーティスト」は広島への原爆投下作戦に観測機として参加した。9日、B29「ボックスカー」機長として作戦を指揮、長崎に原爆を投下した。76年5月、少将で退役。95年の米首都ワシントンのスミソニアン航空宇宙博物館での原爆展の論争では「核兵器の存在を忌み嫌わねばならない」としつつも、原爆投下自体は肯定する立場を貫いた。04年7月、ボストンで死去。

戦後70年

心の奥で「許し」請う

専門家分析

長崎に原爆を投下した米爆撃機の故チャールズ・スウィニー機長が、被爆地の復興を願っていたことについて、キリスト教や倫理の問題に詳しい専門家らは「心の奥に許されたいとの思いを読み取れる」と分析する。

スウィニー氏は、原爆投下自体は正しかったとの立場を貫いた。

南山大のマイケル・シーゲル元教授は「原爆投下が正当でなければ、あまりにも巨大な悪になるので責任を受け入れにくかったのかもしれない」とした。

ただ「被害を悲しむ気持ちが本当なのは孤児院への寄付にも表れている」と述べた。

原爆投下は終戦を早め米兵や日本人の命も救ったと正当化する見方は米国で根強い。

しかし、国際基督教大の森本あんり教授は「原爆は不必要だったとの資料があることは、米側も分かっている」と説明。シーゲル氏によると、スウィニー氏が謁見したというヨハネ23世以降のローマ法王は核兵器に反対の立場で一貫している。

森本氏は「スウィニー氏は悪いことはしていない、任務だったと言うが、善と悪の意識ははっきり線引きできない」とする。孤児や被爆者らに対し「すまなかった。かわいそうなことをした」との思いがあるのは人間として当然と話す。

さらに森本氏は、朝鮮戦争でも、キューバ危機でも核兵器は使われなかったと強調。「これだけはしてはいけないという、広島、長崎の経験が生かされた」と語った。

（共同＝土屋豪志）

世界トップニュース

人民日報（中国）	成長率７％達成は容易でない
朝鮮日報（韓国）	韓国大統領、労働など４大改革訴え国民に演説
バンコク・ポスト（タイ）	政府、水処理施設建設で90億バーツ支払いへ
ワシントン・ポスト（米国）	米大統領選、共和党が討論会
NY・タイムズ（米国）	共和党の討論会、トランプ氏に各候補がジャブ